

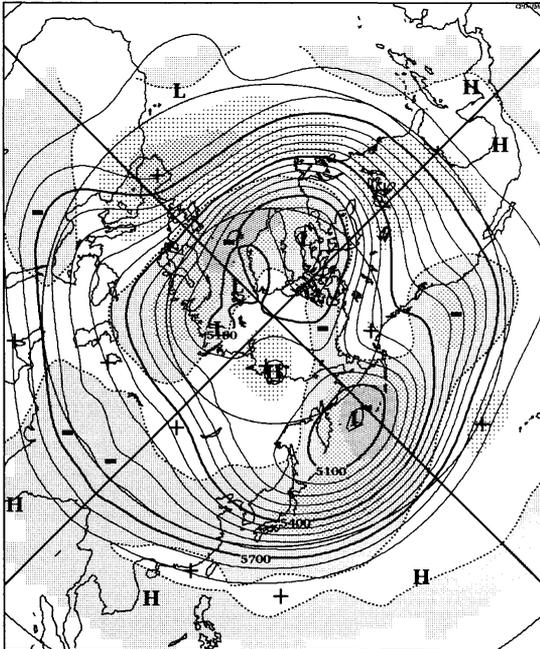
## 2000年2月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

北半球500 hPa 高度では、極渦の中心はカナダのパフィン島付近に位置していた。太平洋北部、東アジア、アジア南部、ロシア西部、ヨーロッパ北部からカナダ高緯度域にかけて負偏差であった。一方、太平洋20~30°N 付近、カナダ高緯度域を除く北アメリカ大陸、大西洋からヨーロッパにかけて、中央シベリア、中央アジア、中東などで正偏差であった。偏西風は、アフリカ北部から太平洋中部にかけての強風域は年よりわずかに強く、太平洋中部付近で年より北東に広がっていた。北アメリカ西部では年より弱く、東部太平洋から北アメリカにかけてと大西洋東部では南北に分流していた。日本付近の偏西風の強風軸は月を通して年並の位置であった。

850 hPa 高度および風ベクトル分布図によると、太平洋赤道域の西・中部とその北側で東風の偏差が卓越し、特に西部は著しく強く、東風偏差の端がニューギニア付近にまで達した。インド洋では、赤道の北側と熱帯じょう乱が複数発生した南側に、顕著な低気圧性循環の偏差が見られ、赤道付近の西風偏差が強かった。

anomalies (m)  
-360 -300 -240 -180 -120 -60 0 +60 +120 +180 +240 +300 +360



2000年2月の北半球月平均500 hPa 高度および年並偏差  
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m. 年並値は1961~1990年のデータに基づくもの。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図を見ると、大規模な発散の中心は、年より約30度西に偏ったオーストラリア北岸のダーウィン付近に位置していた。

SOI (南方振動指数) は+1.1と再び+1を超えた。

### 世界の天候

#### ①日本付近の少雨

サハリンのユジノサハリンスクで0 mm (年並値42.5 mm)。

#### ②インドシナ半島からインド南部の多雨

タイのチェンマイで57 mm (1676%)。

#### ③ヨーロッパ中部の多雨

ドイツのハンブルクで86 mm (208%)。ヨーロッパ各地で雪崩が発生し、多くの被害が報じられた。

#### ④ヨーロッパ西部の高温・少雨

スペインのマドリッドで10.7°C (+3.3°C)。

#### ⑤米国南部の高温・少雨

米国のノースリトルロックで0 mm (年並値89.8 mm)。ジョージア州で中旬に竜巻により20人以上が死亡したと報じられた。

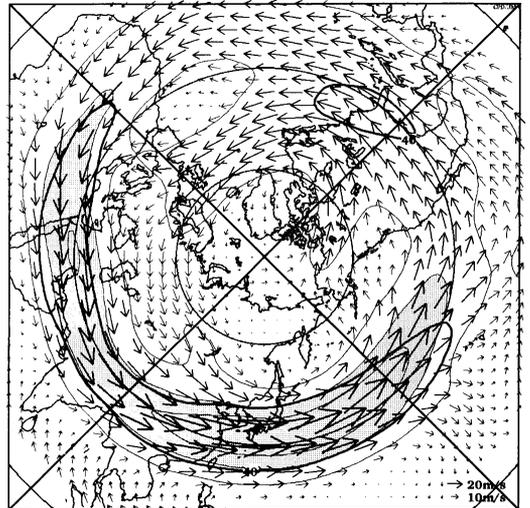
#### ⑥ポリネシア北部の少雨

#### ⑦オーストラリアからメラネシアの多雨

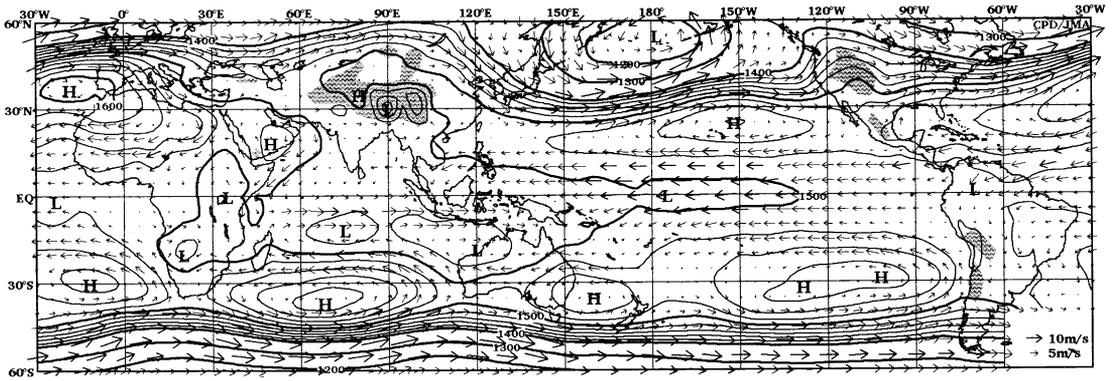
オーストラリアのアリススプリングで250 mm (670%)。オーストラリア東部では大雨による洪水の被害が報じられた。

#### ⑧タスマン海周辺の少雨

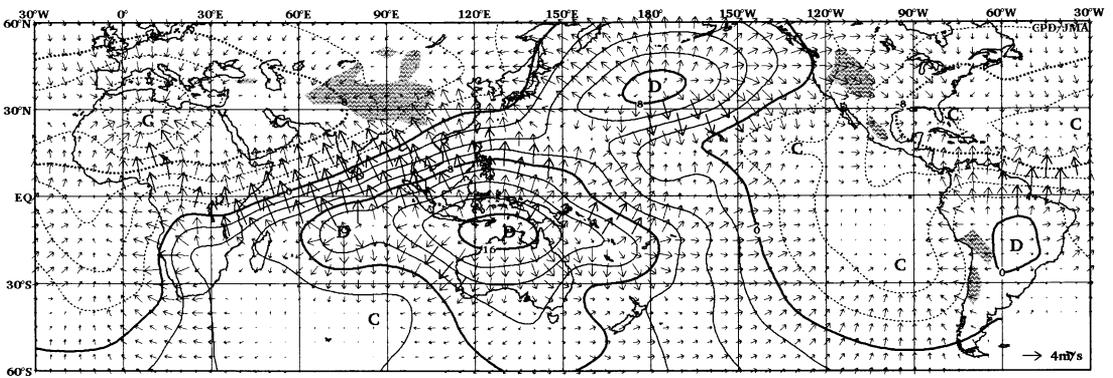
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 山田和孝)



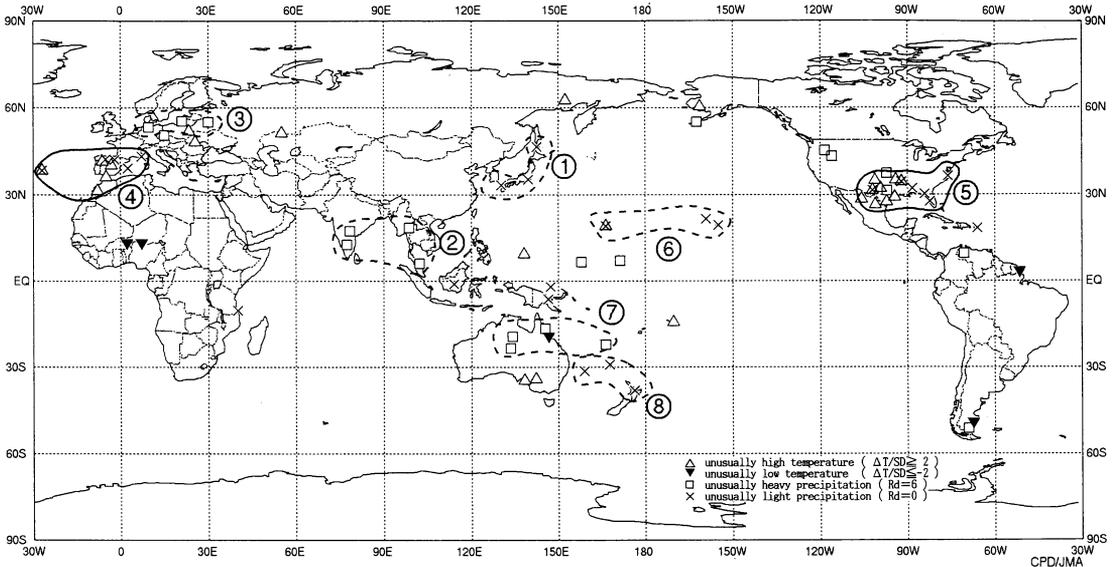
2000年2月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル  
等値線間隔は20 m/s. 陰影部は年並で40 m/s 以上。年並値は1979~1996年のデータに基づくもの。



2000年2月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2000年2月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2000年2月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.